

蓬萊町だより
 第二十七号
 平成三年一月三十日
 発行
 編集者
 平井編

蓬萊町界限（その二十一）

六番地の草津温泉のこと

林 順信

「蓬萊町だより」の第十九号（昭和六十三年七月二十八日発行）に、私は「温泉まわり」という雑文をかかげたとき、旧蓬萊町六番地にあった銭湯の草津湯について割合に戦前戦時中のことを書いたことがある。

その後、「蓬萊町だより」に図版や写真の印刷が可能となったことから、従来、図版があれば、大方の諸兄にもっとご理解いただけたこともあつたらうと思うと、いま再び補填をも兼ねて取り上げてみたいことが加わって来た。

例えば戦前の蓬萊町の街角にあつたカフェーや飲み屋やビリヤードのマッチの箱とか、根津下の映画館芙蓉館のチラシやプログラムとか、肴町にあつた映画館駒込館や動坂松竹館や、白山下の寄席の紅梅亭のピラなども、私のところにあるから、追々とか披露申し上げることも

きることとなった。

また、戦前のラジオ体操の皆勤賞の町会で出した立派な賞状などもあるから、今日になってみると、当町会も随分と力を入れてやっていたし、郁文館学蘭と町会との結びつきも強かったことがわかったりする。

◆ 草津温泉は草分け温泉

閑話休題、現在は向丘二丁目十六となつている角地から北方向にかけて広大な地域に、六番地の草津湯があつた。藤谷彦一郎の経営する銭湯というより市内の温泉場で、同時に宿泊をも出来た旅館をも兼ねた温泉旅館であつた。現在改築中の浅草寺裏の言問通りに面している草津亭という料亭も、また茅場町あたりにあつた草津温泉も明治の文献に出ていたことは解つていて、何れも藤谷という姓の人が経営していたから同系列であつたことは間違いないだろう。

元来、都市江戸はその人口最盛期には百二十万人といわれ、町の湯屋も一町に一つはあつたらうから、町数一七〇〇にも及んだから、千軒くらいの湯屋はあつたらう。その頃は男女の入口も同じで、ざくろ口と通称される入口から入り、湯槽が男女共通であつた。

明治ご一新以来、東京府における湯屋の取締りを見ても、何度も混浴の禁止令が出ている。男女を隔日に入浴させる様にしろとか、湯槽の

中央に仕切板を設けるなどとお触れが出ています。「公衆浴場史略年表」によって少々事項をご紹介する。

□明治七年（一八七四年）

・駒込蓬萊村草津の湯は東京府下温泉の元祖と云われる

□明治八年（一八七五年）

・政府は全国に混浴禁止令を布達

□明治九年（一八七六年）

・三囲社協の梅屋敷は温泉風呂、滝でにぎわう

・東京市内の温泉、薬湯の混浴苦しからずの達

・この頃福沢諭吉、三田に湯屋を設け、湯銭一ヶ月一〇円五〇銭で貸す。当時の湯銭は一人五厘

□明治十年（一八七七年）

・東京市内の温泉（再生）四四湯を数える

□明治十二年（一八七九年）

・東京府統計表、人口九六七・二二一人に市内銭湯一、〇五一軒

□明治十三年（一八八〇年）

・この頃本郷区駒込蓬萊町の湯治宿泊、草津湯の繁昌

□明治十六年（一八八三年）

・東京市内の銭湯を政談演説会場に利用

□明治十八年（一八八五年）

・東京市内再生温泉流行

・東京府湯屋一一三軒

・本郷駒込草津温泉は庭内に大菊人形を造る。今から百数年前の東京府下にも、再生という形で温泉が流行したことがわかる。また鉄道が十分に発達していなかったから、関東地方とい

えども、徒歩で二、三泊くらいいしな温泉場には辿りつけなかったから、手軽に市内の温泉に入れればというので流行したものとみえる。

そんな時代に、草津温泉としては、市内ににせの草津温泉が出来て、第一人者としては黙って居られず、ここにご紹介する引札(広告)となった。時期が明記されていないが、恐らく明治二十年代と思われる。

主旨をかいつまんで述べてみよう。

「諸君益々御機嫌よく遊ばされ恐逸至極に存じ上げます。私共草津温泉はかねがね御披露申し上げました通り、上野国吾妻郡草津鉾泉の湧き出る地に、私所有の沢山の温泉流通の樋を持ち、年々宮繕を重ねて居りますれば、最も上等の湯業を得て、それを私共本店並びに京橋区樋町十九番地の支店のほか、全国中に輸出致して居ります。ところが近年諸府県下に草津温泉の名を唱えにせの湯治場開店の者が多いので、御客様の御為にも宜しくないので、真偽功害をはっきりするため、今般廣告申し上げますので、相変わらず御来車御入浴の程伏して御願ひ申し

上げます。」

という広告を絵入りで出している。当時の草津湯は木造瓦葺き二階建てで、カギの手になっていて、部屋数も十や十五くらいはあったのだろう。

お風呂に入って食事つきで、宿泊すること一廻り、つまり一週間で、上等四円八十銭、中等三円五十銭、下等三円と出ている。

一晩だけ泊まるのなら上等で四十銭、並等で三十銭だった。

一日じゅう出たり入ったりの温浴は十五銭、一回こっきしなら二銭だった。

東京府下の銭湯の料金は明治十二年に大人一銭だったのが、明治二十九年には大人二銭になって、明治三十年には大人二銭五厘に値上げされている。草津湯の場合は町のふつうの銭湯と料金が一緒だったかどうかは調べないと解らないが、府下の取締料金だから恐らく一回の入浴料は共通だったろうから、この引札は明治二十九年(一八九六年)頃のものと推定される。

草津湯入口の門柱のそばに一府の瓦斯灯がある。人力車をかけて湯治に来るなど、明治時代の都会人士も粋でよかったと思う。

■草津湯のまわりの想い出をすこし

私共が昭和十年頃に見たり、入浴した頃の草津湯の入口は最も北側(田中齒科医院に近い方)

に、巾五米ほどの道路が奥まで入っていて、入口は現在のアスファルト道路に面してはなかった。その入口の左手だかに古道具屋があったと思う。反対側の正面にはピリヤードと、左隣りに越智酒屋、さらに埼玉屋履物店があり、その履物屋の角を西の方に入る細い路地がくねくねとあり、細かい家々の間をくぐりぬけると、現在の堀江商店辺で本郷通りに出られた。越智酒屋の娘さんは色白で丸顔の日本人形みたいな少女だった。多分、和菓子一炉庵の池田美知江さんと同じ位の試三小学校の生徒だったと思う。

埼玉屋履物店の息子さんは確か昭和二年頃の生まれで府立三商に入学した紅顔の美少年で、ランドセルを背負って越中島まで通学していた。埼玉屋の日よけのテントがいつも我々子供には邪魔だったが、その南脇きの細い路地を入ると、共同水道場があって、龍吐水の様に龍の吠えている鑄物の水道口から、確かカギを入れて給水を受けていたと思う。

その路地を曲がらず、道のドン突き空地に、赤い鳥居のお稲荷さんがあって、紙芝居のおじさんが昼さがりには毎日来ては、「黄金バット」だの「鞍馬天狗」だのをやっていた。

酔昆布とか水飴とか、ラムネを固めたブリンブリン手で回すやつを一銭で買って観た。うしろの方で只見をしても、「二、三日に一度くらいお菓子を買いばいいよ」というきまりだった。

その赤い鳥居のわきには二階屋の井川さんの縫場物があって、あいた窓から女の人達があねさんかぶりでエブロンがけて働いている姿が見えた。敗戦後、そのお稲荷さんは再びそこに祀られることはなかった。その場所は、現在は拡張された道路の中に埋没してしまっただろう。

町会活動の概要

平成2年7月から平成3年1月中旬まで

総務部

8月13日 根津神社祭例行事最終打ち合わせ、
9月15、16日 今年の祭例も天候に恵まれず小雨模様で2日間で心配致しましたが、町会会員皆様の温かいご支援とご協力を戴きまして盛大に挙行出来ましたことを厚く御礼申し上げます。
10月1日 平成2年国勢調査実施される、当町会宛に統計局から調査員選出の委嘱があり数名の役員が指定された地域の調査を担当致しました、その節には皆様のご協力を戴きまして誠にありがとうございました。

10月11日 「文京区区制早期改革実現を目指す区民の集い」区民センターに於いて開催された。
10月16日 「区長と区政を話し合う集い」

向丘出張所に於いて開催、町会長出席、

11月1日 地下鉄7号線工事に伴う対策協議会
は本駒込駅と東大前駅の二団体があり、町会代表に会長が専任致しておりましたが、本月からは会長が本駒込駅対策協議会を広沢副会長が東大前駅対策協議会を担当致します。

11月26日 本駒込駅対策協議会は本日地下鉄工事現場を視察しました、工事の進捗状態はほぼ完成に近く目下レール敷設中であります。

赤羽〜駒込間 営業開始 本年秋頃の予定、

12月15日 松飾り(絵ピラ)会員宅へ配布

12月18〜29日延べ12日間夜警実施

交通部

9月23〜30日 秋の全国交通安全運動実施、当町会ではこの期間中には交通部員、婦人部員友の会会員の皆さんが連日街頭において交通安全の啓蒙普及に努めてまいりました。

皆さんが交通ルールをよく守っていただければ悲惨な事故は防げるとだれもが充分承知されています。それでもこれ位はと、つい自己本位に考えて無謀な運転並びに歩行に走りますと予想もされない大きな惨事に遭遇しかねません。

焦りは禁物、お互いに注意しあって無事故の町づくりにご協力下さい。

防犯部

10月1日〜15日 全国防犯運動実施、当期間中は11月に行われる「即位の礼」を控え地域防犯のほか過激派による不穏な動きもみられる事から町内の自主防犯活動を行ってまいりましたが、当町内ではこれと言う大きな出来事ありませんでした。

防火防災部

8月10日 本郷地区防災訓練実施、
9月1日 「防災の日」本郷地区防災訓練実施、訓練は文京区役所、本郷消防署の主催により午前9時地震発生時の想定のもとに避難誘導訓練を兼ね東大グラウンドに集合し正午まで訓練が行われました、当町会では16名が参加、酷暑の中でいろいろの訓練に自主参加をして参りました。このような訓練にはなるべく大勢の方の参加が望ましいのです、次回には是非ご参加下さい。

文化部

蓬萊町たより 第25号 8月10日発行
" 第26号 9月30日発行

1月15日 成人式をお迎えの方へ祝品を贈呈、成人式をお迎えの皆さん誠におめでとございます。

会員のご家族で本年成人式をお迎えに成られた

方々のお名前は左記のとおりでございます。
町会よりささやかではございますが、慶事を祝
し記念品をお贈りさせて頂きました。

記

桑出啓一郎様、白井 清昭様、田中 拓久様、
青木 剛様、清水 大介様、秋山 圭子様、
藤関 涼子様、三河 晃子様、岩本 薫様、
池田麻知子様、小山 明子様、水野 照子様、
鈴木 孝子様、大畑佳世子様、藍原 敦子様、
戸田 順子様、豊田 啓子様

婦 人 部

7月3日 清掃工場施設見学

9月3日 「敬老の日」の行事として海蔵寺に
おいて行われた「はぜの天ぶら会」に婦人部員
が例年の事ながら終日接待の手伝いで奉仕を致
しました。

10月 共同募金 一金 一七三、三五〇円

12月 歳末助け合い募金

共同募金並びに歳末助け合い募金につきまして
はいつもながら町内皆様の温かなご厚情により
まして多額の金円が集まりました誠にありがと
うございました。

9月15日 「敬老の日」にあたり祝品贈呈、敬
老の日にあたり町会より心ばかりの祝品をお贈
りさせて頂きました。

該当される方は、平成2年に77歳喜寿、80歳傘
寿、88歳米寿、をお迎えに成られた方と90歳卒
寿以上の方々でございます、誠にめでたくとうご
ざいました。

本年該当される方は24名おられます、今後も御
健康に留意されて楽しい日々をお過ごし下さい。

青 年 部

9月15、16日 根津神社祭礼に際しましては町
内皆様の御支援と御芳志によりまして神輿渡御
は町内くまなく巡幸致しました。

これは一重に町内皆様のご厚情の賜物と感謝致
しております。

ただ私共の悩み事と致しましては神輿の担ぎ手
が年々少なくなってきたことでございます。

是非次回の祭礼のときには皆様のお友達を大勢
誘って戴き、祭礼を賑やかに盛り上げて下さる
様お願い致します。

12月18、29日まで延べ12日間、夜警実施、木枯
らしの吹く寒い日もありましたが、私達青年部
は全員で町会の後援のもとに連日町内を防火、
防犯を念頭において巡回致しました。

幸いにして当町内からは火事、盗難等の発生は
皆無で越年出来ました事、青年部員一同心から
嬉しく思っております。

計 報

当町会にお住まいの方で平成2年7月から12月
末までの間に御逝去された方々のお名前は左記
のとおりでございます。

謹んでお悔やみを申し上げ御冥福をお祈りいた
します。

記

溝口房次郎様、吉見 志つ様、岡野 和子様、
鈴木 ハル様、富谷 正子様

編 集 部

謹賀新年

平成3年の新春を迎え町会会員の皆様にはお健
やかに日々御活躍の事と存じます。

当号がお手元に届く頃には正月も終わりに近づ
くかと思いますが、本年も町会事業の運営には
役員一同心を一つにして一生懸命町内の安寧と
発展に寄与すべく微力ながら努力して参りたい
と存じます。

会員皆様の旧に倍するご支援とご協力を賜りま
す様お願い申し上げます。

編集委員

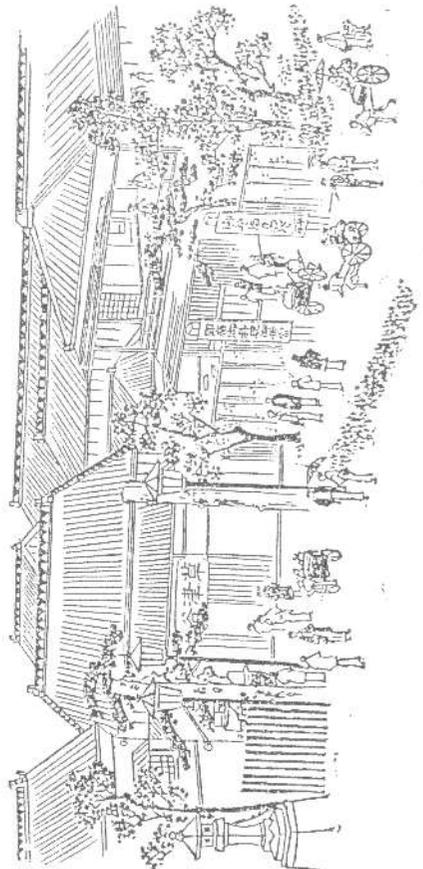
小林音吉、竹中一馬、高橋一郎、
猪熊良晃、池田 暉、

東京温泉祖伝

効能	せんき	すんばく	ぢしつ	えうせく	ないせく
	つ	ひぜん	いんきん	きりきせ	うちと
じんぎやう	せうち	らうせやう	ちらくも	たんぜん	せんせく
たゞれ	たむし	ようてう	ねぶせ	かつけ	れうちせ
ともやけ	やけせ	ふうしつ	りうあん	酒せく二日	ふひ
がんがこ	ひれ	ごん前	ごんごち	の	みらよし

此外、ひたひたの(男女)三やうよく諸流行病の豫防と
 又其効妙なるべし

諸君、女御機嫌能遊御屋、極至極に奉存候。隨て私營業、草津
 湯泉の儀、從前御我、露申上置候。連り上野、國吾妻郡、草津、銅泉、湧
 出の地に、私所有、數多有之。溫泉流通の、極譽、譽、等、年々仕來候。
 故右湯樂の、儀、極取、上等品、と始、一切、私方、直、支、店、東京、々、橋、榎
 町、十九番地、の外、全國、中、に、輸出、致、候、申、成、て、無、之、い、勿、論、い、候、處、近
 年、諸、府、縣、下、に、草津、湯泉、の名、を、唱、へ、聲、造、の、湯、治、場、開、店、候、者、多、分
 有、之、由、湯、本、ま、も、略、及、聞、御、各、種、方、の、御、爲、不、宜、旨、類、い、記、患、仕、候
 間、真、僞、功、害、を、分、か、た、ん、爲、め、今、設、更、に、此、段、廣、告、仕、候、尙、不、相、替
 御、來、重、御、入、浴、の、程、伏、奉、希、上、候、也



一 壹廻り御止宿御入浴御食事惣御賄

上 金 四圓 八拾錢
 中 金 三圓 五拾錢
 下 金 三圓 拾錢

一 壹夜御止宿御入浴御食事御賄

並上 金 三圓 四十錢

一 一日御入湯

金 拾 五錢

一 壹度御入浴

金 二 錢

御料理御辨當御好次第

精々念入御手輕に仕候

草津鑛泉元藥

御自宅用湯藥定價

○壹廻り發入 金 七十五錢
 ○半廻り 同 金 四拾錢

右、御飲湯、御洗湯、い、發、入、○金三錢より○金五錢○金拾錢○金廿錢、差上可申候
 右、御湯藥、い、御自宅にて湯を沸し御用、散遊候、い、諸病、い、妙也、尤、御、湯、に、被、遊、候、共、是、又、諸病、い、効能、ある、事、如
 神、御、の、と、い、の、せ、つ、い、三、ふ、ん、の、一、ご、ん、ば、ん、ご、と、う、入、れ、て、御、用、散、遊、候、に、候、め、に、ち、かり、よく、候、なり、事、如

東京温泉祖伝 本郷區込達菜町番地 藤谷

○此度、清く匂なく極きれいにて御婦人様方御化粧のさわりよなら
 ざる御風呂別に新規出来仕候間御披露申上候是又御入浴奉希候也